

「マルファン症候群は、突然死を起こす可能性がある疾患です」

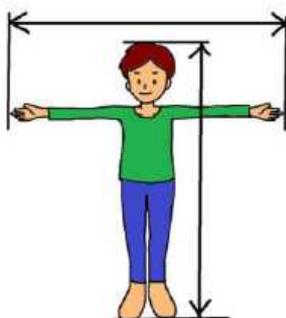
マルファン症候群の外見上の特徴は高身長です。したがって、長身者の多いバスケットボールにおいては注意が必要です。

マルファン症候群は、約5,000 人に1 人の頻度で発症するといわれ、体の組織を支えたり、力を伝達する結合組織(骨格、眼、心血管など)に異常をもたらし、大動脈解離等の突然死の原因になる心大血管異常を引き起こします。また、他の組織も衝撃に弱いために、マルファン症候群と診断または強く疑われる選手は、バスケットボールのような体のぶつかるスポーツは回避すべきです。したがって、日本バスケットボール協会では、選手選考の一条件として、これらの選手の参加を認めていません。

昨今、マルファン症候群は、早期発見、早期治療により健常人と同様な生活を送ることができるようになってきました。

以下の項目を確認し、当てはまる場合には専門科(年齢により循環器内科または小児(循環器)科)の受診をお勧めします。(*判断に迷われた際は、まず、一般内科医へのご相談をお勧めします)

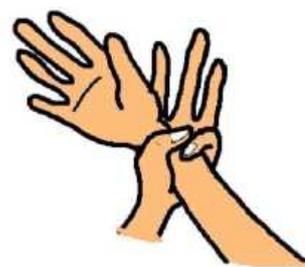
- マルファン症候群、若年での大動脈疾患、若年での突然死の家族歴がある。
- 心大血管疾患の既往歴があり、最近2年以上検査を受けていない。
- マルファン症候群を疑われ過去に検査を行い問題なかったが、3年以上経過してしる。
- 水晶体脱臼の既往歴や手術歴がある。
- 高身長(痩せ型)、長四肢、長指趾、漏斗胸、鳩胸、明らかな側弯症、
- 下記の簡便な身体所見が複数あてはまる。
 - * 指極間距離[図A]:指極(arm span)/身長が1.05 を超えると陽性
 - * サムサイン(Steinberg 母指徴候)[図B]:母指を曲げて掌の中に握りこんだ際に、母指の先端の爪の部分が完全に飛び出す場合を陽性
 - * リストサイン(Walker-Murdoch 手首徴候)[図C]:親指と小指で反対側の手首を握ると小指の末節骨まで完全に親指を重ね合わせることが可能な場合を陽性



図A



図B



図C

* 詳細は日本マルファン協会ホームページ<http://www.marfan.jp/>をご参照